

公明党議員団視察報告書

2016年7月28日

貝塚市議会議長

中山 敏数 様

参加者 北尾 修
谷口 美保子
中山 敏数

報告者 北尾 修

【視察先】

1. 群馬県前橋市

日時 7月21日(木) 14時～15時30分

場所 前橋市役所

面談者 交通政策課 中畝課長 片貝副主幹

内容 マイタク（デマンド相乗りタクシー）について

(1) 概要

事前登録制

・登録条件 前橋市に住民登録がある方で

A：年令75才以上の方

B：年令65才以上で運転免許証をお持ちで無い方

C：下記の①～⑦のいずれかの該当者

①身体障害者②知的障害者③精神障害者④発達障害者⑤要介護・要支援認定者

⑥難病患者・小児慢性特定疾病患者⑦妊産婦

・支援内容

複数で利用の場合 1人1乗車につき最大500円を支援

1人で利用の場合 運賃の半額を支援（但し、1運行1,000円を上限）

・利用時間帯 午前7時から午後6時まで（運休日は無）

・運行エリア 前橋市全域が基本

乗車地、降車地のいずれか一方が前橋市内でも可

・支援回数 1人1日2回まで利用可 年間上限回数は120回

(2) 導入に至る経緯

①市長の公約・・・200円で市内全域を運行するデマンド交通の実現

②前橋市全市域デマンド化研究会の設置（現在、計10回実施）

- ③中間報告に基づき「移動困難者対策」と「公共交通不便地域対策」の2つのアプローチで検討
- ④移動困難者対策として「デマンド相乗りタクシー」社会実験の実施
(計3回6地区で実施)
- ⑤社会実験毎に利用者アンケート、バス利用調査研究を実施

(3) 現在の状況

登録者数が予定していた14,000人に届きそうである
運転免許証の自主返納者が急増している

感想：前橋市は公共交通としては、鉄道でJR、上毛電気鉄道があり、バス会社6社
デマンドバス2区域で運行されており充実しているほうであるが、それでも
移動困難者が数多くおり、その対策としてマイタクが実施をされた。

市民には好評で利用者も増加傾向にある。運転免許証の自主返納者が急増し、
交通事故の減少にも期待が持てるとのこと。

貝塚市においても、移動困難者が今後ますます増加していく中で、公共交通の組合せ
として、デマンドタクシーの導入を検討すべきだと考える。

2. 埼玉県新座市

日時 7月22日(金) 10時～12時

場所 新座市役所

面談者 経済観光部コミュニティ推進課課長 細沼 伊左夫氏

同 上 コミュニティ推進係主任 橋爪 誠次氏

内容 地域担当職員制度について

(1) 概要

体制としては市職員903名のうち技能労務職及び再任用職員を除く全ての正規職員を対象に
市長が任命。町内連合会に属する61の単位町内会に、6名程度で現在361名の地域担当職員
として活動している。各町担当に班長及び副班長を配置し、中心として担当する町内会との連
携を図っている。その役割は町内会の会議に出席し、市政に関する情報を提供し、地域の実情
や課題等を把握することである。町内会からの意見要望等を受けた時は、関係所管課との調整、
対応をする。身近な課題等の解決に向け、地域と共に取り組んでいる。

(2) 導入に至る経緯

町内会及びボランティア団体をはじめとして、多くの市民の皆様の協力を頂きながら「連帯と
協働によるまちづくり」を進めているなか61の町内会があり、地域コミュニティの中核とし
て重要な役割りを担っていただいている。しかしながら町会の加入率は年々減少傾向にある。

そんな中、1部30円で町内会で市広報を全戸配布してもらっていたが町内会員以外の住民へ配布する割合が増えており、平成28年度からシルバー人材センターへ委託し全戸配布を行っている。市広報紙の変更に伴い、一部の町会から「町内会で広報を配布しなくなるにより地域のつながりが希薄になる」との意見があった。そこで、市広報紙の配布方法の変更を契機に、市職員が地域に出向き、地域との連携を強化することで、地域コミュニティが活性化していくことを目指して、本年4月1日から「新座市地域担当職員制度」を開始した。

(3) 現在の状況

平成28年6月末現在で、町内会の総会・役員会等に112回に参加している。その中で各町内会から154件の意見・要望等を受けている。内容については、防犯、防災、交通安全、道路、ごみ回収及び環境など地域の身近な課題が多く、各町内会からは「地域担当職員に相談後、すぐに所管課から連絡があった。対応の速さに感謝している。」や「町内会の会議に市職員が参加してくれると、市の制度等についてスムーズに確認出来るので助かる。」など、現在のところ前向きな感想が寄せられている。

また、地域担当職員からは、「日頃の業務とは異なる話を聞いた。今後の業務に生かしていきたい。」や「特に防災に関する意識が高いと感じた。地域の特色を知ることが出来た。」などの感想が上がり職員が地域に積極的に関わっていくことで、対人折衝能力や課題解決能力など、職員の資質の向上につながっている。

(4) 問題点

この制度は本年度に始まったばかりであり、まずは会議に参加することからと考えていたが実際に祭りや防災訓練等の町内会の活動に参加し、地域の実情を把握してほしいとの意見がある。本年度は会議4回への参加を予定としているが、本来の業務とは別の時間外に携わることとなるため負担増が懸念される。

感想：この制度の導入は大変難しいものであると思います。貝塚市には祭りを通しての独特のコミュニケーションがある町内会も数多く存在しており、その中まで入ることは出来ないと察します。しかしながら職員が地域に入っていけば、今まで見えなかった多くの問題が見え、仕事に生かされる事も多々あると考えます。

実際に自分の地域外を担当されている、議会事務局の方には、大変に勉強になっておっしゃっていました。

自分の住む地域だとやりにくい面も多々あるとのことでしたので市内在住の職員だけでなく、市外在住の方も通勤経路の地域など担当するなどの工夫を加えながらの実施としないといけない。

早急の実施は難しいかもしれないが、試験的な導入などを検討していきたい。

以上